

キンモクセイの香る秋空の中 「カブトムシ里親まつり」を開催!!

台風14号による天候の影響もなく、10月11日(日)、親子4家族15名の参加者を迎え箕面エキスポの森で「カブトムシ里親まつり」を開催しました。

このイベントは、箕面森林ふれあい推進センターが7月に公募した「森林ふれあい推進事業」に応募されたNPO法人クワガタ探検隊と共催で開催したものです。



森林散策



夢中に幼虫を探す子どもたち



森林散策



熱心に紙芝居を聞く子どもたち

当日は、すがすがしい秋空の中、高山所長から歓迎の挨拶を行った後、創作紙芝居「エキスポ森のサンバ」を西美和氏が熱演し、参加者は熱心に聞き入っていました。上演の後、「オオクワガタの棲(す)める森づくり」として整備している森を、西義史氏の解説を聞きながら森林散策を行い、森の中に設置してある昆虫ベッドにたどり着きました。子供たちが楽しみにしていた、本日のメインイベント、カブトムシの幼虫探しです。指導者の西氏からは、「この昆虫ベッドにはコクワガタ、ミヤマクワガタ、カブトムシ、コカブトムシの幼虫がいます。」との説明があると子供たちは夢中になって、幼虫を探し始めました。西氏から「カブトムシの雄と雌の見分け方が解る人。」の質問に、すかさず「雄はおなか側の下部にV字があります。」と答える昆虫博士さながらの子供もいて、将来が楽しみです。幼虫が見つかるたびに歓声が上がりました。親御さんも子供と一緒に探す様子を見て微笑ましく感じました。

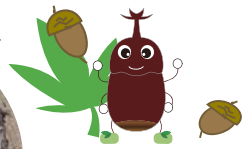
今年は天候が不順だったことから、カブトムシの幼虫はあまり見つかりませんでした。西氏が自宅で養育している幼虫も含めて、参加者家族は、ペアのカブトムシ幼虫を自宅で養育することとなりました。中には、見つけたミヤマクワガタの幼虫も自宅で養育するため持ち帰る家族もおられました。

参加者全員で、三密を避けて各家庭で持参した昼食を楽しみ、自己紹介を交えながら秋を満喫しました。

今年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、予定していた行事がすべて中止となっていました。ようやく感染症対策を行ってのイベントにおいて、参加者の満足した笑顔が拝見でき、スタッフも安堵して帰路につきました。参加者が自宅に持ち帰ったカブトムシが無事に成長して、来年の初夏には成虫になることを願っています。



カブトムシの幼虫



見つけた幼虫をビンにつめて持ち帰り。カブトムシが成虫になりますように★



参加者の皆様とスタッフ

